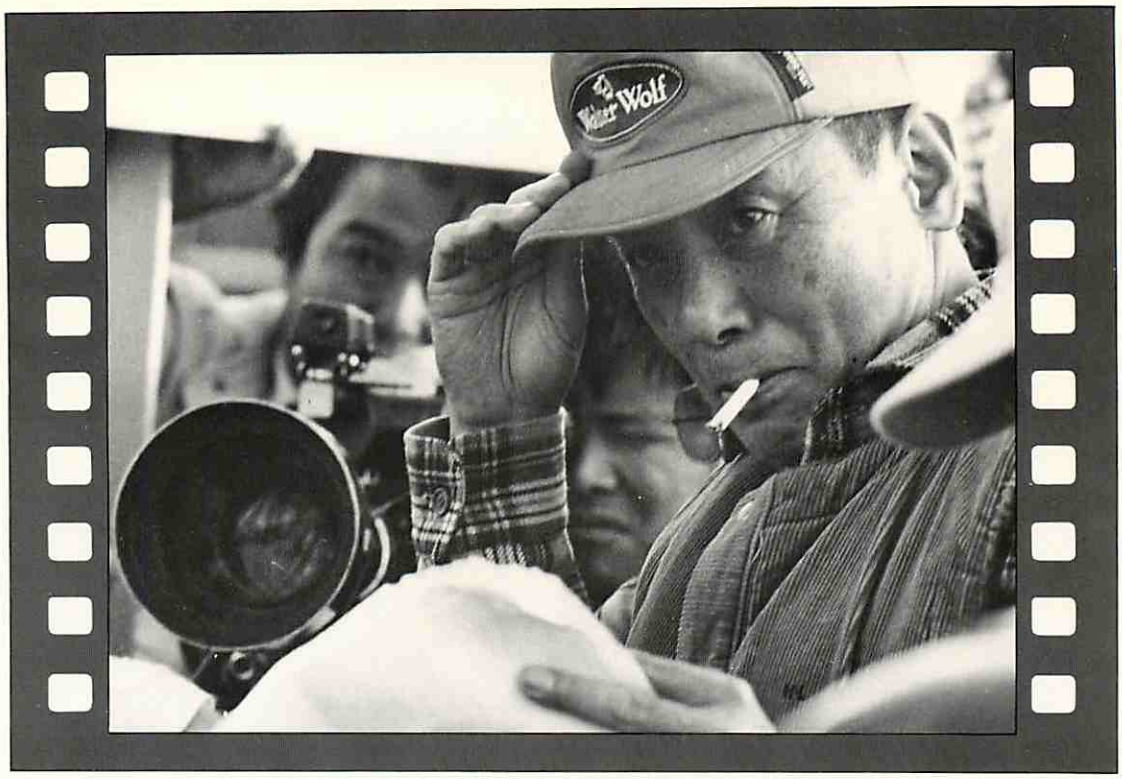
喜劇 家族同盟

松竹映画



前田陽一監督作品

演出のことば

家族をめぐるドラマはテレビにうばわれてしまって久しい。

ようやく今、映画による家庭のドラマが復権しつつある。もともと、それは松竹の伝統的なお家芸でもあった。私もその復活に手を貸したい、といいたいところだが、私の映画が、そうそうありきたりのホーム・ドラマになるわけはないのだ。

ほんとうのふれあい
みい～つけた

かいせつ

〝感動〟って身近なものなんだ、

'84年松竹お正月作品、**「喜劇・家族同盟」**は全篇コメディータッチの中で、とかく話題になっている〝家族〟の問題を問い直そうというものです。経済生活が一応、安定したいま、最もかえりみられなかった場所に現代人はスポットをあて、抱えているとまどいを解消しようとしています。

お話は奇想天外、〝家族〟の情愛に飢えている人々が集まって、お互い血のつながりのない、ニセ物同士がくりひろげる、ファミリーごっこ。一般的なよくある家族を真似て、それぞれが役割をお芝居みたいに演じているうちはよかった。が、もともと他人だから、〝家族〟のワクをぶち破って行動し始めたので大変！――**「祭りの準備」「津軽じょんがら節」**他で評価を得ている**中島丈博**のオリジナル脚本を、**「神様のくれた赤ん坊」「つっぱり清水港」**の、喜劇の異才・**前田陽一**監督が演出、〝家族の時代〟をオカシク、痛烈に逆照射します。

主演に、息子役の**中村雅俊**。デビュー10周年を迎えて、ドラマに、歌に、さらに大きな階段を昇る彼の新魅力が見られることでしょう。その相手役、ただひとり何も知らずに、この家族に入ってきた新妻役に、**中原理恵**。天性の感覚と美貌で、たちまち人気を得た彼女が、この作品で初めて本格的に映画出演。雅俊・理恵のフレッシュ・コンビによる新婚アツアツ夫婦ぶりも大いに期待が寄せられています。

また**有島一郎・ミヤコ蝶々**のベテランに、**川谷拓三**、TV「欽ちゃんの週刊㊙曜日」で人気爆発、**佐藤B作**が初のおカマ役で出演、**中尾ミエ**の女座長役とともに楽しみです。また**コント赤信号**、**小松政夫**の愉快なキャラクターも出演、フォーク歌手の**ダ・カーポ**が主題歌「冬のかもめ」を歌って出演しています。ロケーションは横浜中村川近辺。

笑っていいとも！
不思議なファミリーの
おかしな生活！

ものがたり

横浜の海を見降す丘の上の二階家。折しも玄関が開いて出てきた男、晴男（**中村雅俊**）の出勤である。晴れやかに夫を送り出す新妻の百合子（**中原理恵**）「あなた早く帰ってね」——どこにでもある朝の風景である。

茶の間では姑のナツ（**ミヤコ蝶々**）と舅の弦一郎（**有島一郎**）の老夫婦。さらにこの一家は晴男の妹キーコ（**佐藤B作**）、百合子の連れ子正太郎（**渋谷伸弘**）とにぎやかな家族構成からなっている。

ナツが正太郎を連れて近くの三吉演芸場へ出かけ、お芝居に熱を上げている昼下り、一流銀行員であるはずの晴男が近所の家へ語気も荒くサラ金の取り立てをしているところから、この〝よくある家族〟のイメージが狂ってくる。——実はこの一家すべて他人の寄せ集まりであった。弦一郎は、つい最近までは浮浪者同然の身。その彼が半年前ゴミと一諸に三百万円の大金を拾ったところにこの一家のルーツが発生する。サラ金業の幾雄（**川谷拓三**）に金の使い道を聞かれた弦一郎は以前から実行したかった夢を語った。戦災で亡くした息子と暮らしたい。たとえ仮の息子でもいい…、一家そろった家族の生活がしてみたい……」。

幾雄が連れてきた晴男を一眼で気に入ったが、晴男から「弦一郎に五千万の生命保険をかける、お前が受取人になるんだ」と言われて、気のりしなかったが晴男は承諾してしまった。

息子が出来たらこんどは連れ合いが欲しいと言い出した弦一郎は、三吉橋のタモトで拾ったヤリテ婆さんナツを選んだ。さらにおカマのキーコなる女性（？）が晴男の妹にと志願してきて、一家は四人。「この際、おれも嫁さんもらっちゃうか」晴男はTVの公開番組で選ぼうとしたが、落選してしまう。ところが拾う神あり、正直な晴男の態度に好意を抱いて番組を見ていた近所の保母さん・百合子さんと縁あって結婚することが出来た。彼女は〝他人ばかりの集まった家族〟とは何も知らず嫁いできた。

スタートした新・ファミリーに鋭く喰い込んで来るのは腹にイチモツの幾雄であった。心臓の良くない弦一郎をひっぱり出しては健

康の為と称して過激な運動を強いる。いつかはサウナに閉じ込めて虫の息にさせてしまった。晴男が一緒に居たおかげで事なきを得たが……。

さて相変らず芝居通いのナツは劇団が子役を募集していると知って正太郎を楽屋へ連れ込んだ。女座長の夢之丞（中尾ミエ）は正太郎を一眼見て気に入った。そしてこの腕に痣があるのを見た彼女はすぐに正太郎の母、百合子を呼んで欲しいと言い出した。

「正太郎こそ私が四年前やむを得ず捨てた子に違いない」。百合子は返す言葉がなかった。百合子は実の母夢之丞に、返す決意をする。涙ながらにその苦しみを語る彼女に晴男は、自分たちも血のつながりのないニセ家族であることを白状した。

「ニセの家族でも、他人同士でも、本当の家族のように芝居して、たまらなく気持がよくなってくるんだ、温い満足な気持が…」「そうね、寄せ集めでも家族は家族よ！　血のつながりなんて！」「取り戻しに行こう、正太郎を！」

夢之丞は舞台の上で子別れのシーンを演じながら、実の子を二人に返す決意をかためるのだった。

この池田屋に家庭崩壊のきざしが見えた。それぞれが夫婦喧嘩や、兄弟喧嘩、嫁いびりを演じているつもりが本気になっていく。弦一郎が嫁の百合子に愛を打ち明けたり、妹のキーコが兄の晴男に惚れたり……他人だから家族制度のワクを超えてくる。そんな時、あの幾雄が「淋しいから、おれも仲間に入れてくれ！　一緒に家族の芝居をしたいよォ」と頼みこんできた。彼の心を計りかねて、またこれ以上の混乱を避けるためにも、晴男は断わった。

ところがその夜、この池田家に火事が起きた。一家が必死になってお互いを救け出した。「アニキはおれたちと心中しようとして火をつけたんだよ…」「あたしたちの家族がそんなによく見えたのかねえ…」とガックリ肩を落とす。

★　★　★

その日の午後には中村川に浮ぶダルマ船の上で、もとのように暮らす池田家の面々があった。そこには本物の家族も及ばぬ親密な気分が漂よっていた。

喜劇 家族同盟

撮影ならば

高い所から落ちるのは苦手!!

中村雅俊

映画の中で〝恋人獲得ゲーム〟に出場した雅俊は五人の内一番に風船の浮かんだプールに落とされるが、落ちるまでの過程が大変。映画で見るとたいした高さではないが上へ登ると約三mはある。そして箱の下にはスピード感を出すためローラーが付いている。

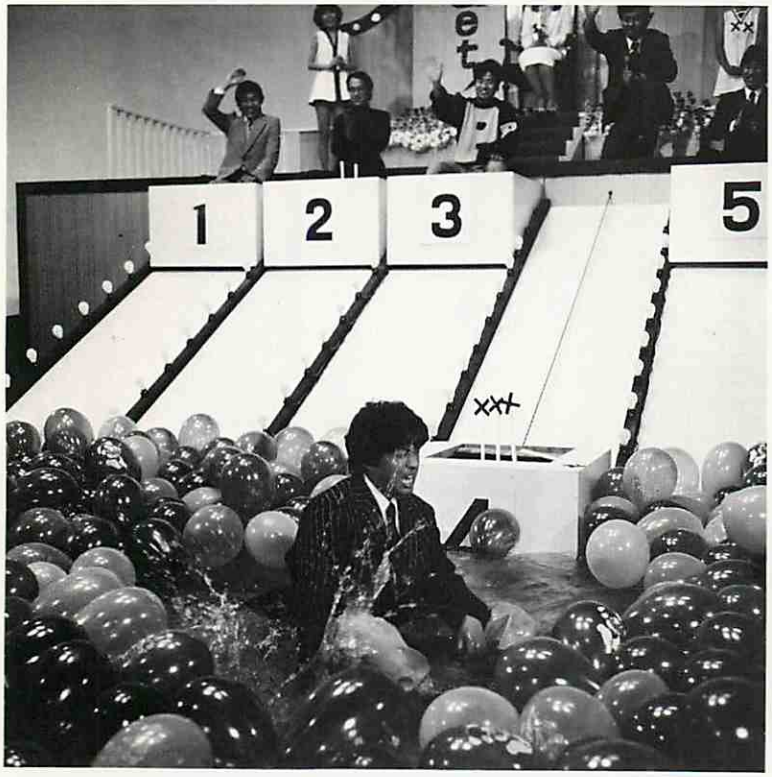
最初どのくらいのスピードで落ちるか分らないのでこの舞台を作った人が生贄となりプールへ落下。風船は見事に飛んだが本人も前のめりにすっ飛び、眼鏡は折れ、あごは打つし、自分ながら恐いのを作っちゃったよと泣いていた。

それを見ていた雅俊「まるでジェットコースター見たいだな、俺ヤバイよ。」参ったなあと頭をかいていた。

監督以下スタッフも雅俊に怪我でもされては映画が撮れなくなるとあって色々考えたあげく後ろからロープで引張りスピードを落とすことに決定。

ようやく雅俊も安心してプールへ落下。このシーンを撮影するだけで半日かかりました。本当にご苦労さま。

雅俊もこれを機に高所恐怖症になるかもネ!



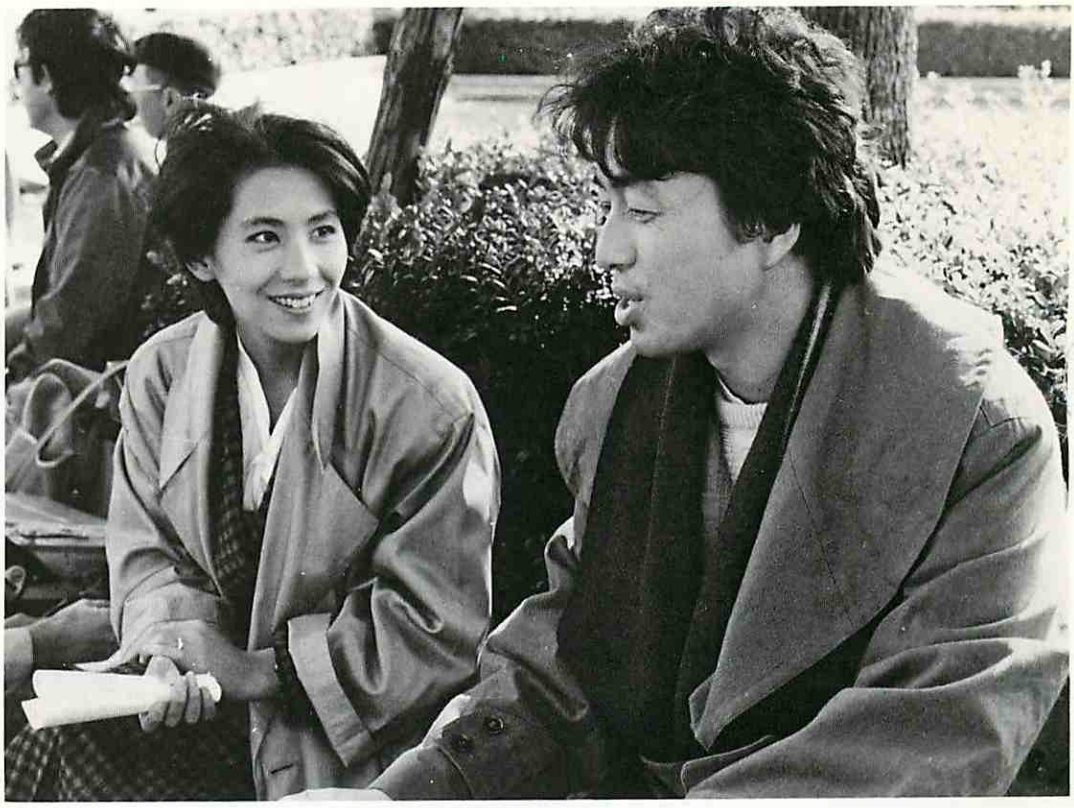
オカマも慣れると気持ち良いネ!?

佐藤B作

週刊㊙曜日の欽ちゃんバンドで人気のある佐藤B作は今迄色々な役を演じたが、今回のような役はもうコリゴリだよと撮影初日から嘆くことしきり。というのは今度の映画では中村雅俊の妹役で出演というのだからB作ファンもビックリ。出演依頼があった時、前田監督に俺みたいなのがオカマ役出来るんですかと質問。「いや君だって磨けば仲々のものだよ」とおだてられ、ついその気になって出演したが、横浜ロケの〝家族〟揃って記念写真のシーンでは、かつらを付け、着物を着せられ、苦しいわ、歩きづらいわでモウ後にも先にもやりませんと脱オカマ宣言。

しかし、撮影が進むにつれて口紅を塗る動作も様になり「どうかしら私、奇麗」とスタッフに本気で聞くなどオカマ役もまんざらではなさそう。慣れるってことは本当に恐いですネ。

雅俊・理恵ちゃんのB作評は気持ち悪いけれど、何かソクソクって来る魅力があるナですって?



私もそろそろこんな可愛い子が欲しいナ！

中原理恵

中原理恵の連れ子で出演している渋谷伸弘君（3才）は撮影中、本当のお母さんを無視していつも理恵にピッタリ寄りそい仲むつまじい所を見せていた。

ロケーションでの昼食時、お母さんがお弁当を持って食べさせようとすると理恵を指さして、「あっちで食べたい」とだだをこね、スタッフを笑わせていた。

理恵も「こんなになつかれると手離したくなくなっちゃうわ」とほっぺにキス！

誰ですか子供と変りたいと思っている人は。

ともあれ理恵が子供を産んだら普通の母・良い母・悪い母のどれになるんでしょうか？

じす いず あ ふぁみりー

同盟

はっぴい　にゅう　いや～！

喜劇 家族

冬のかもめ

作詩・作曲　榊原　まさとし
歌　ダ・カーポ

一）愛していますか　誰れかを
愛されていますか　誰れかに
夢はいくつ　持ってますか
明日は　見えますか

冬のかもめよ　寒くはないか
お前も止り木　探しているの
冬のかもめは　愛にはぐれて
冷たい波頭を　かすめてとぶ

生きてゆくのは　淋しいものと
口に出さずに　暮してるけど
悲しみや　そして　喜びを
伝える人が　ほしいの

愛していますか　誰れかを
愛されていますか　誰れかに
大切な人は　いますか
すべてを　かける人は…

二）冬のかもめよ　聞こえるだろう
海風が運ぶ　船出の汽笛
冬のかもめは　泣いちゃいけない
別れの悲しみ　聞こえても

人は誰れでも　孤独な心
胸の奥に　かくしてるから
美しい　愛やあこがれを
追いかけて　生きているの

愛していますか　誰れかを
愛されていますか　誰れかに
夢はいくつ　持ってますか
明日は　見えますか

愛していますか　誰れかを
愛されていますか　誰れかに
大切な人は　いますか
すべてを　かける人は…

ダ・カーポ

右・榊原まさとし、左・榊原ひろこ

ダ・カーポのあゆみ

S48．4　横浜で出会った、榊原まさとしと久保田広子は、デュオを結成。ダ・カーポ（音楽用語で最初に戻るの意）。いつまでも初心を忘れないの意味で名付ける。

S48．8　オリジナル曲「夏の日の忘れもの」でコロムビアレコードデビュー。

S49．6　4枚目のシングル「結婚するって本当ですか」が大ヒット。

S51．10　「愛する人と生まれた街へ」で、空の音楽祭へ参加、グランプリを受賞。

S51．11　「宗谷岬」が札幌有線で優秀賞受賞。

S55．3　アニメーション映画「地球（テラ）へ」の主題歌に初挑戦。

S55．9　横浜山手教会にて結婚。榊原広子となる。これを期にダ・カーポとしての活動休止。

S56．7　親友さだまさしの書き下ろし曲「不良少女白書」で榊原まさとしソロ活動に入る。

17cm　シングル
- 不良少女白書（S．56．5．1）
- 明日…あざやか（S．56．11．1）
- 横浜マリー（S．57．5．1）

30cm　アルバム
- 孤独なルネッサンス（S．56．5．25）
- 心象風景（S．57．6．25）

S58．7　ダ・カーポとしての活動再開。

ダ・カーポ・ディスコグラフィ

17cm　シングル
- 夏の日の忘れもの（S．48．8）
- 恋はかげろう（S．48．11）
- この手のひらいっぱいに（S．49．3）
- 結婚するって本当ですか（S．49．6）
- 家族日誌（S．49．11）
- バスが坂道を下りてくる（S．50．3）
- 燃える手紙（S．50．9）
- おはようさん～NHKテレビ小説主題歌～（S．50．11）
- 宗谷岬～NHKテレビみんなの歌～（S．51．4）
- 雨あがりのファンタジー（S．51．6）
- 誰かと今日もすれ違い～日本テレビグランド劇場主題歌～（S．52．2）
- 愛する人と生まれた街へ（S．52．5）
- 結婚するって本当ですか〈再発売〉（S．52．10）
- 卒業（S．52．11）
- 夕凪のふたり～日本テレビ"気まぐれ本格派"主題歌～（S．53．1）
- バイバイ・イエスタディ（S．53．6）
- 旅路から（S．53．8）
- 雪もよう（S．54．2）
- 地球へ（S．55．2．25）

30cm　アルバム
- 歌う風たち＝ダ・カーポアルバムVol．1（S．48．11．）
- ダ・カーポ／ファースト・ライブ（S．49．7）
- 日誌＝ダ・カーポアルバムVol．2（S．49．11）
- いつか愛する人ができたら／ダ・カーポVol．3（S．50．8）
- 道知辺（S．51．8）
- ダ・カーポ　ブーケ（S．51．11）
- いんていめいと～ダ・カーポ、グランド劇場を歌う（S．52．10）
- やさしさ通信／ダ・カーポベスト16（S．52．11）
- 遊歩道（S．53．5）
- てんさくの花～僕らは歌追の人その1（S．53．10）
- チャイム／ダ・カーポ（S．53．11）
- ハートメイド（S．54．6．25）
- 僕らは歌追い人（S．54．9．25）
- 宇宙船地球号（S．55．6．25）

中原理恵インタビュー

――〝喜劇〟というタイトルとは違う意味の笑い――

――中原さんは映画出演二回目ですね。

中原―はい。

――やはり映画はお好きですか。

中原―好きですね。楽しいです。よく皆さん〝手作り〟っていいますけど、本当に職人さんが集まってるという感じがしますね。

――この映画は喜劇ですけど、喜劇というのは、やはりやりやすいですか。

中原―これは監督もおっしゃってましたけど、〝喜劇〟というのはタイトル上のことで、中味自体は喜劇というものを意識した出来上りじゃなくて、たいへんシリアスな部分がいっぱいでてくるんです。だからシリアスな部分と背中合せで、ちょっと吹き出しちゃう部分ってありますよね。それがこの映画だと思うんです。そういう意味で、すごく難しいです。どちらかというと、隠し事を持った人達の集りであるとか、ウソの家族の中の会話のおかしさといった面白味であって、笑わせようという意識はすごく少いお芝居なんです。

――笑わせよう…という事は特に意識してないわけですね。中原さんにとって家族とは何ですか。

中原―そうですね、たとえば気を使ったり、緊張したり、ダラっとしてもその中にわざとらしさのないという事が家族だと思うんですね。家族だからといって気を使わないわけでもないし、それなりに気を使うわけですけど、その全てがホッとするという事が家族なんじゃないのかなと思います。

――この映画では一人一人が血のつながっていない家族という設定ですが、そういう中で家族としての暖い

つながりはあり得ると思いますか。
中原―そうですね。血のつながりは、人間生きていくうえで、それしかないという程の事ではないみたいですね。確かに血のつながりは大事だけれど、（血のつながりが）なくても違う意味でのつながりができてくるという事がよくわかるんです。
―子供はお好きですか。
中原―大好きなんです。
―この映画の百合子の様に、自分の生んだ子供じゃない子を育てる自信はありますか。
中原―すごく難しい事だと思います。ただその子供がなにもわからないで、自分を母親のように思ってしまったら邪険にはできないでしょうね。やはり自分の手の中に入れてしまうと思います。女性なら誰でも一時は手にしてしまうでしょうけど、その後どうするかというのは、人それぞれだと思うんですね。私の場合、百合子の様に育てていけるかというと、やはりすごく悩むと思います。ただ、道端に子供が置きざりにされていたら、黙って見過すことはないと思います。それで子供が話せる様になって「ママ」って言われれば、自分がママだと思うでしょうね。
――その時生みの親が現われたら……
中原―子供がどちらかを選べる年頃になっていたら選ばせてあげたいと思います。でも、まだ選べないという段階であれば、親のエゴではなくて、何も知らない子供をそっとしておきたいという意味で、私は育ての親の方が大切だと思いますね。
――キーコという小姑が出てきますが、うるさい小姑のいる所には嫁ぎたくないですか。
中原―いえ、私はあまりそういう事はないです。だいたい一家に一人位はそういった細い事を言う人がいたり、短気な人がいたりといった様に波紋を投げかける人物がいると思うんですね。でも最終的にはそういう人が家族のつながりを深めるきっかけを作ったりするので、どちらかというとそういう人って好きですね。
――かえって闘志を燃やすとか。
中原―そうですね。またこの映画の中のキーコさんは純粋な小姑じゃないですから。オカマ小姑ですからね。（笑）ちょっと特殊な感情が入ってきますけど。私は小姑ってムキになって何でもかかってくる様な所が子供みたいで好きですね。
――自分もうるさい小姑になる可能性があるかもしれませんよね。
中原―口に出すかどうかはわかりませんけど、思うことは思うでしょうね。「あれはやらなければいいのに。」というように。それを口でぶつけるか、陰湿に考えこむか、思っても忘れるかという中から選ぶとすれば、私は思ってもスグ忘れるタイプですね。人それぞれだなと思って次に進む方ですから、あまり（うるさい小姑には）ならない方ですね。
――好きなシーンやセリフはありますか。
中原―結局みんなウソをついているという事を重荷に感じているわけですけど、後めたさを感じながら暖いものにひかれて、ついついウソをつきっぱなしになるという様な、人間の弱い所と一人じゃ寂しいんだ…というのがこの映画の一番いいところなんですね。シーンでいえば要所要所にポンと出てくるんです。だから特別このシーンというより、全編を通した節々になんとなくありますね。
――相手役の中村雅俊さんはいかがですか。
中原―前に一度恋人役で御一緒した事があるんです。見るからに大きいし、抱容力のある素敵な男性で、すごく男らしい所と男の持つ子供らしさという二つの部分を持っていらっしゃって、仕事をしている時もそれ以外でも一緒にいてとても楽しいですね。
――良きパートナーですね。
中原―ええ。ただ雅俊さんの場合、もう奥さんもいらっしゃって、素敵な家庭をお持ちですから友達の様な感覚であまり異性としては意識しませんね。私のファンの方々は男女を問わず、共演した方の中で本当にお付き合いしてほしいという男性の一位に必ず中村雅俊さんの名前があがるんです。きっと私が割合小さくて細いのと対称に中村さんは背が高くてがっしりしているという様に、並んで見た場合、夫婦とか恋人という絵としてピッタリするんでしょうね。
――中原さんも歌手ですが、この中で歌手のダ・カーポのお二人が歌と出演もしていますね。
中原―ええ。ダ・カーポのお二人は気取らない方達ですし、例えば大きな舞台で歌っていても、野原や家の窓辺で歌っていても変わらない歌声ってあると思うんです。ダ・カーポの歌っていうのはそういう魅力があると思います。実際にも御夫婦ですし、そういう事がこの映画の素朴な所や、〝家族〟というテーマにピッタリだと思います。
――最後にこの映画を御覧になった方々にメッセージをお願いします。
中原―喜劇というタイトルが付いているだけに、その言葉の響きで皆さんが構えて来られたらどうしようという心配があるんです。この映画は掲げたタイトルとは別の意味の笑いだと思うんですね。ごく普通にある笑いを役者が集まってやるとこうなるんだという様に。また特に題材が奇抜でウソの家族の集りというものですから、この斬新な設定を楽しんでいただけたかという事が一番気になる所です。そして正面からいつも物事を見るというだけでなく、まるっきり裏側から人間の構成を考えた時に、思いがけない悲しさがでるんじゃないかと思います。

山中晴男　中村　雅俊

サラ金の取り立て業でワルぶってはいるが、人の良さがのぞく。弦一郎の息子に選ばれて、新妻まで迎える果報者だが、アニキの幾雄との〝計画〟に心いためる。

三島百合子　中原　理恵

TV番組で〝花嫁探し〟に出ている晴男を見て好意をもった保田さん。連れ子・正太郎をつれて池田家にお嫁入り。この一家が〝他人ばかりの集まり〟とは、ゆめ知らずに……。

池田弦一郎　有島　一郎

池田家の当主。半年前に拾った三百万をもとでに、〝夢――死んだ息子や女房を集めて、家族ぐるみの生活がしたい〟を実現した。もと浮浪者。

ター招介

「池田家」ってどんな家族？

横浜の丘の上の一軒家に住む親子三世代が同居する一家。当主弦一郎とその連れあいナツ、息子夫婦の晴男と百合子とその子正太郎、晴男の妹キーコの六人家族である。これが実は、最近になって集められた〝他人ばかりの家族〟で、みんな身寄りのない者同士が心寄せあって暮している。

小国ナツ　ミヤコ蝶々

弦一郎の連れ合いに選ばれた、以前、道端で女を世話していたオバハン。芝居狂いで、正太郎を連れて近くの三吉演芸場へ日参。

キーコ　佐藤　B作

弦一郎が〝家族〟を募集していると聞き、晴男の妹にと志願してきた、実はオカマの女性（？）。外見とちがって非常にナイーブ。

小堺幾雄　川谷　拓三

晴男を使っているサラ金業者。弦一郎に眼をつけ、生命保険をかけていただこうとしている。実は最も家族の情愛に飢えている男。

キャラク

香山夢之丞　中尾　ミエ

横浜三吉演芸場を根城にしている役者一座の座長。正太郎を見て、四年前捨てたわが子と知り、百合子から取り戻そうとする。

正太郎　渋谷　伸弘

写真屋　小松　政夫

●スタッフ

製作……名島　徹
原作……中島丈博
脚本……前田陽一
〃……中島丈博
監督……前田陽一
撮影……長沼六男
美術……芳野尹孝
音楽……田辺信一
録音……小林英男
調音……小尾幸魚
照明……佐久間丈彦
編集……太田和夫
監督助手……梶浦政男
進行……小松　護
製作主任……福山正幸
スチール……赤井薄旦
宣伝……松本　淳
〃……宮田秀世
◆主題歌「冬のかもめ」（徳間ジャパン）
作詞・作曲……榊原　まさとし
歌……ダ・カーポ

●キャスト

山中　晴男……中村雅俊
三島百合子……中原理恵
〃　正太郎……渋谷伸弘
池田弦一郎……有島一郎
小国　ナツ……ミヤコ蝶々
小堺　幾雄……川谷拓三
キーコ……佐藤B作
香山夢之丞……中尾ミエ
阪東蝶太郎……高田純次
写真屋……小松政夫
司会者……コント赤信号
フォークグループ……ダ・カーポ
スナックのマスター……平田　満

●編集・発行／松竹株式会社 事業部　●350円

喜劇 家族同盟